

五 欧州政況関係

235

昭和8年1月8日 在仏国長岡大使より
内田外務大臣宛(電報)

小協商諸国は伊国の国境改訂要求に対抗するため日本の連盟脱退を好都合とするとのベネシュ外相のジェロウ記者への内話について

パリ 1月8日後発
本省 1月9日前着

第八號
七日「ジェロウ」カ本使ニ内話セル處左ノ通り何等御参考迄ニ電報ス

客年十一月中旬當國上院外交委員會委員長「アンリ、ベランジエ」カ歐洲會議列席ノ爲羅馬ニ赴キタル際「ムツソリー」ニ首相ヨリ歐洲問題ニ關シテハ英、佛、伊、獨ノ四大國力協議シ歐洲政治地圖ノ改訂ヲ行ハサレハ平和ヲ維持スル能ハス例ヘハ獨逸ニ取りテハ波蘭「コリドウル」ノ問題ヲ解決シ又伊國ニ取りテハ舊「ハップブルグ」家ノ領土タル

洪牙利ヨリ「ユーロスラヴィア」、勃牙利更ニ君府ニ迄及フ國境問題ヲ解決スル必要アリト述ヘ之ニ對シ「ベ」ハ右達シ得ヘシト思考スル旨ヲ答ヘ歸佛後之ヲ「エリオ」ニ報告シ「エ」ハ「ベ」ノ輕卒ナル應答振りニ憤慨シタル由ニテ右ノ話カ小協商國ニ傳ハリタル爲十二月十八日、十九日「ベルグラーード」ニ於テ小協商諸國會議力急遽開催セラレ其結果同會議力常設機關ヲ設置スルコト並次同會議ヲ二月壽府ニ開クコトヲ決議スルニ至リタル次第ナリ尙右ニ關聯シ「ベネツシユ」ハ「ジェロー」ニ對シ小協商國ハ右ノ如キ伊國ノ意圖ニ脅サレ居リ若シ國境改訂問題勃發シ事態紛糾スル力如キ場合ハ速ニ聯盟規約第十五條第七項ヲ援用シ之ニ基キテ右諸國ト佛國トノ軍事條約ヲ適用セシコトヲ欲ス故ニ日本ノ立場ハ了解スルモ自國防衛ノ立場ヨリ聯盟規約ヲ擁護シテ萬一ノ場合ニ備ヘサル可カラス右ノ見地ヨリスレハ寧ロ此ノ際日本カ聯盟ヲ脱退シ吳ルルコ

ト自分達ニハ寧ロ好都合ナリト内話セル趣ナリ
英、伊、獨、奧、羅馬尼ニ轉電シ巴里聯盟へ轉報セリ

236 昭和8年3月20日

在伊国松島大使より
内田外務大臣宛(電報)

ムツソリーニ首相からマクドナルド首相およびサイモン外相に対し四国協約の提案について

ローマ 3月20日後発
本省 3月21日前着

第二四號
往電第二一號ニ關シ

伊國首相ハ十八日事務所タル Palazzo Venezia 及十九日英國大使館ニ於テ「マ」首相及「サ」外相ト會談シ一般現狀

ニ關シ完全ナル意見交換ヲ行ヒタル後「ケロッグ」條約及「武力ニ訴ヘサル」宣言ノ精神ニ基キ歐洲及世界ノ恆久和平ヲ確立スル爲西歐四國ノ協力實現ヲ目的トスル「ム」首相成ノ重要政治問題ニ關スル試案ヲ検討シタル旨二十日公表セラル尙英國首相及外相ハ同日正午巴里ニ向ケ出發セリ

237

昭和8年3月22日 在伊国松島大使より
内田外務大臣宛(電報)

四国協約に関するムツソリーニとマクドナルドおよびサイモンの会談内容に關し在伊国英

ローマ 3月22日後発
本省 3月22日前着

第二六號
往電第二五號ニ關シ

二十一日英國大使内話

伊國首相ノ提案ハ五項ヨリ成リ簡單ナルモ意見重大ナリ英、佛、伊、獨四國ノ協調ニ依リ歐洲ノ政局ヲ安定セシメントスルモノニシテ要ハ武力ニ訴フル事ナク聯盟規約ノ範圍内ニ於テ平和條約ノ改定ヲ斷行シ歐洲ニ於ケル現(在)ノ不安ヲ除去シ少クトモ十年間平和ヲ確保セントスルニ在リ右提案ハ條約改定ノ現實ノ問題ニハ特ニ觸ルル處ナキモ波蘭

「コリドール」、「ハンガリヤ」國境問題等ハ伊國首相ノ念頭ニ置キタル處ナルヘシ、本提案ハ同時ニ佛、獨兩大使ニ示サレタル趣ナルカ獨逸ハ異存無カルヘク從テ事ノ成否ハ一二佛國ノ意図如何ニ懸ル處佛國トテモ何時迄モ今迄通り獨逸ヲ抑制シ得サル事ヲ考慮シ結局本案ニ同意スルモノト思考ス、本日英、佛首相巴里ニ於テ會談ノ筈ニ付若シ佛國側ニシテ本案ニ同意スルニ於テハ英首相ハ歸英後本案ヲ閣議ニ提出スヘシト存ス

側ニシテ本案ニ同意スルニ於テハ英首相ハ歸英後本案ヲ閣思考ス、本日英、佛首相巴里ニ於テ會談ノ筈ニ付若シ佛國

獨逸ヲ抑制シ得サル事ヲ考慮シ結局本案ニ同意スルモノト

伊國外務次官内話

伊國首相ノ提案ハ(一)壽府ニ於ケル軍縮會議ハ此ノ儘ニテハ纏マリ兼ヌル事(二)歐洲四大國(佛國大使同様日本ノ聯盟脱退ニ言及ス)ニシテ協調センカ歐洲問題ハ何トカ平和裡ニ處理シ得ヘキ事(三)歐洲ニ於ケル現在ノ不安ノ空氣ヲ除去スル爲ニハ伊國首相力從來主張シタル通り條約ノ改訂ヲ要スル事ノ三大綱目ニ基クモノニシテ若シ英、佛、獨三國ニシテ趣旨ニ於テ之ニ應スルニ於テハ國際聯盟ニ本件ヲ提起セントスルモノナリ、本提案ニ對シテハ英國首相ハ好意ヲ有スルモノト認ムルニ付其ノ成否ハ一二佛國ノ態度如何ニ依ルモノト思考ス尙英國ノ軍縮提案ニ關シテハ伊國ハ研究中

238 昭和8年3月23日 在仏國長岡大使より
内田外務大臣宛(電報)

四国協約の内容およびこれに対する英仏の態

度に関するバッセの内報について

パリ 3月23日後発
本省 3月24日前着

第一六三號

今回ノ伊國四國提案ニ關シ廿一日「バッセ」ノ内報スル所左ノ通(アマ) 同提案ノ内容

一、英佛獨伊四國ハ不戰條約及曩ニ軍縮會議ニ於テ採擇セラレタル不戰決議ノ精神ニ基キ平和維持ノ爲並ニ歐洲ニ於ケル各種問題ヲ平和的ニ解決スル爲協力ス又同時ニ四

發前ニ英伊間ニ本案ニ付何等詰合無カリシモノナリ本案ニ關シテハ獨伊接近シ爲ニ空氣險惡ナリト宣傳セラレ居ル際伊國カ思切ツテ平和維持ノ爲斯ル提案ヲ爲シタル事故好意ヲ以テ之ヲ考慮シ度シト思ヒ巴里ニ立寄リ佛國側ニモ右ノ次第ヲ傳フル次第ナリト述ヘタリ

右ニ對シ「ダラディエ」ヨリ(一)今新ニ四國ノ團結ヲルコトハ國際聯盟ノ存在ヲ危殆ナラシムルモノニ非スヤ(二)條約改訂問題ハ從來何レノ國モ之ニ觸ルルヲ避ケ來リシモノニテ今本問題ヲ提起シテ討議セントスルハ佛國トシテ贊同シ難キ處ナリ況ヤ本問題力具體的ニ如何ナル範圍性質ノモノトナルカ又一旦討議ヲ始ムルモ果シテ何ノ程度迄満足ナル解決ヲ得ル見込アルモノナリヤ不明ニシテ本問題ノ討議ハ益々事態ヲ紛糾セシムル丈ニテ本案提議ノ趣旨タル平和維持ノ目的ニ添ハサル様思ハル(三)獨逸ニ軍備平等權ヲ認ムル事ニハ主義上異存無キモ其ノ条件トスヘキ安全保障ノ問題ハ如何ニナルヘキヤモ不明ニテ旁佛國トシテハ提案ノ趣旨タル平和維持ニハ異存無キモ各種ノ問題ニ付充分研究シタル上ナラテハ本案ニ對シ諾否ヲ表明スル能ハスト述ヘ別レタル由ナリ

四、英佛伊三國ハ獨逸ニ對シ軍備平等權ヲ與フル事ヲ主義上承認ス之ハ壞太利洪牙利及勃牙利ニ對シテモ同様ナリ而シテ右三國ハ本原則ヲ實行スル爲必要ナル措置ヲ採リ獨逸ハ之力實行ノ爲大統領令ヲ發ス

五、本協定存續期間ヲ十年トシ締約國ノ一ヨリ右期間終了ノ一年以前ニ廢棄ノ通告無ケレハ更ニ十年間更新セラルル事トシ本協定ハ各締約國ニ於テ批准セラレ聯盟事務局ニ寄託セラル可シ

六、二十一日ノ英佛首相、外相ノ會談ニ於テ「マクドナルド」ハ本協定案ハ自分力飛行機ニテ「オスチア」ニ著キタル時「ムツソリーニ」ヨリ渡サレタルモノニテ壽府出

ノ事トテ今(回)ノ兩首相會見ニ於テハ特ニ論議セラレサリシモ自分一己ノ考ニ依レハ該案ハ比較的客觀的ニシテ勿論各國トモ夫々異論アルヘキモ各國ニ於テ異論アルタケ夫レタケ公平ナルモノト思考ス
往電第二五號通り轉電セリ

右ノ如ク本案協定案ヲ英佛等ニ於テ研究スルコトナリシ
爲英國軍縮提案ヲ討議スル能ハサルコトナリ結局之力討
議ヲ一箇月間延期スルニ決シタル趣ナリ
土ヲ除ク在歐各大使、米、壽府全權へ轉電セリ
巴里局長へ轉報セリ

239 昭和8年4月26日 在チエツコ・スロヴァキア堀田(正
昭八公使より 内田外務大臣宛(電報))

四国協約に小協商諸国は反対とのベネシユ外

相の議会演説について

プラハ 4月26日後発
本省 4月27日前着

第一三號

⁽¹⁾「ベネシユ」外相ハ二十五日議會ニ於テ外交演説ヲナセル
カ重ナル點左ノ通
伊太利ノ四大國獨裁案ハ大戰前ノ舊思想ニ復歸シ戰後ニ於
ケル中歐諸國ノ發展ヲ阻害シ國際聯盟ノ職分ヲ侵犯セント
スルモノナルニ付小協商諸國ハ之ニ反対ナリ「サイモン」
外相ノ口吻ニ依レハ英國ハ同案ニ對シ最初程同情ヲ有セス

クス」ニ依リ露骨ナル意見ノ衝突ヲ阻止スルノ必要アリ
英、米、佛、伊、獨、墺、波蘭、羅馬尼、壽府軍縮代表ニ
郵送セリ

240 昭和8年5月4日 在独國永井大使より
内田外務大臣宛(電報)

ヒトラー内閣の对外政策について

別電 五月四日發在独國永井大使より内田外務大臣
宛第八二号

对外政策に関するバーベン副宰相のロード・
ニュートンへの談話

ベルリン 5月4日後発
本省 5月5日前着

第八一號

當國「ヒットラー」内閣ハ既報ノ通成立以來内政改革ニ專
念シ居リ未タ確乎タル新外交政策ヲ樹立シ居ラサルカニ見
ニ往電第四五號最初ノ議會演説以外ニハ外政ニ關スル政府
側意見ノ發表ヲ見ルコトナカリシカ一方國內統一ノ爲愛國
心敵愾心ノ肝要(編註)ヲ強調シ國內異分子ノ芟除ニ努メタル結果

佛蘭西ハ四月十日ノ回答中ニ於テ四國ノ協力ヲ右四國間ノ
ミノ問題ニ限定シ聯盟規約第十九條ノ外第十條ノ領土保全
ノ規定ヲモ斟酌スルト共ニ軍縮平等問題ニ付テハ安全保障
ノ問題モ考慮スルノ要アリトノ意見ヲ提出シ居リ旁同案ハ
根本的修正ヲ經ルニアラサレハ成立セサルヘシ又國境ノ改
定ノ如キ問題ハ大國側カ直接利害關係國タル小國ニ何等ノ
壓迫ヲ加ヘス之等諸國ト今後多年協調ノ實ヲ擧ケタル後平
靜ナル雰圍氣ノ内ニ於テ且當事國相互ノ利害ヲ尊重シ公平
ナル對償ヲ認ムル基礎ノ下ニ非サレハ協定ニ達スルコト不
可能ナルヘク

本件ハ平和條約中ノ他ノ部分ト異リ小協商諸國存立ノ基礎
ニ關スル問題ナルヲ以テ大國側カ恣ニ之ヲ決定スルコトハ
素ヨリ不可能ナリ斯ノ如キハ飽迄之ヲ阻止セサル可カラス
摯ナル爲吾人ヲシテ同會議力戰債及經濟通商問題ニ關シ好
結果ヲ齎スヘキコトヲ期待セシム來ル可キ軍縮會議ニ於テ
ハ英國案ノ運命決ス可ク安全保障及軍縮ノ程度等ニ付意見
ノ扞格ヲ免レサルヘキモ予ハ最小限度ニセヨ軍縮案ノ成立
スヘキコトヲ信ス唯之力爲ニハ充分ナル政治的「タクチツ

豫テ感情圓滑ナラサル佛國ハ勿論英米ニ於テモ著シク反獨
氣分ヲ喚起シ知名ノ人士ニシテ議會演説其他ニ獨逸攻撃ヲ
ナスモノアリ「ヒ」政府ノ外政ニ關スル危虞ノ念廣ク存ス
ル處最近當地來遊ノ「ロウド、ニユウトン」ニ對シ現在事實上外務大臣ノ役割ヲ演スト稱セラル「バーベン」副宰
相カ爲セル談話(別電第八二號)「ウォルフ」ヲ通シテ公
表セラレ茲ニ政策ノ概念ヲ示シタリ
英佛新聞等ニハ之ニ關スル論評ヲ掲載スルモノアリ中ニハ
此種獨逸政府ノ首腦者ノ協調的言明カ同政府ノ行ハントス
ル處ト一致スヘキヤ疑問ナリト揶揄セルモノアルモ獨逸側
新聞中殆ト論評ヲ加フルモノナシ右ハ言論界ニ對スル完全
ナル政府側ノ統制ノ現狀ニ徵スルモ外政ニ對シテハ未タ手
ノ廻リ兼ヌル現政府ノ受動的立場ヲ反映シ居ルモノト見サ
ルヲ得ス若シ夫レ比較的緣遠キ極東問題ニ至リテハ的確ナ
ル意見ノ持合セナキヤニ想像セラレ從テ我方ヨリ漸次進ン
テ指導ノ要アルヘク過日本使訪問ノ折及宣傳大臣トノ會談
ノ際ニモ我方ノ事情説明ノ緒ヲ開キタルカ兩人符ヲ合ス如
ク日獨親善ノ必要ノ萬一ノ場合ニ於ケル對蘇關係ニ結ヒ着
ケントスルノ傾向ヲ認メラレタルヲ以テ本使ハ右ノ如キ敵

本主義ヲ離レ東亞全局ノ平和保持ノ見地ニ誘ヒ置キタリ尤モ右會談其他ニ依リ本使ハ政府首腦者カ對蘇關係ヲ重要視シ居リ國內ニ於ケル共產黨ノ彈壓、蘇聯通商機關ニ對スル干涉等ヲ強調スル他面對蘇國交維持ニ顧念シ居ルモノトノ印象ヲ得タリ

本電別電ト共ニ在歐米各大使（白土ヲ除ク）ニ轉電セリ

編注 「肝要」の個所に「涵養」の書込みあり

（別電）

ベルリン 5月4日後発
本省 5月5日前着

（一）大戰及講和條約ニ依リ最モ苦キ經驗ヲ嘗メタル獨逸ハ平和ヲ希望スルニ於テ人後ニ落チス

（二）歐洲ニ於ケル政治經濟上ノ混亂狀態ヲ常軌ニ復スル意味ニテ「ムツソリーニ」ノ四國協約案ヲ歡迎ス

（三）獨逸ハ寧ロ世界ノ幸福ノ爲共產主義撲滅ニ着手セルニ拘ラス此ノ運動ノ國外ニ充分理解セラレス我ヲ攻擊スル者

第八二號

プラハ 6月2日後発
本省 6月3日前着

第一八號

小協商理事會五月三十日ヨリ三日間當地ニ開催三國外相出席諸問題ニ付左ノ通意見合致シタル旨ヲ發表セリ

一、四大國協定ハ新案文ニ依レハ國際法ノ原則及聯盟規約ヨ

四國協約は新案文により小協商理事会の合意について

ローマ 6月9日後発
本省 6月9日後着

（四）四國協約の仮調印および同協約要旨について

リ生スル各國ノ權利ニ反スルカ如キ規定ハ削除セラレタルノミナラス四大國殊ニ佛蘭西カ協商三國ニ對シ協定ノ目的ハ締約四國間ノ行動ニ限ラルコト聯盟權能ノ不可侵及國境改定反對ニ關スル保障ヲ與ヘタルニ顧ミ最早危險ナキニ至レリ

（五）軍縮問題ニ付テハ英國案ヲ交渉ノ基礎トスルト共ニ安全

保障ニ關スル米國大統領ノ意見ヲ満足トス只右保障ノ觀念ハ侵略國ノ定義ニ關聯シテ更ニ進展セシムルヲ要ス又軍備平等ノ原則ハ認ムルモ安全保障ノ實現ニ連レ漸進的ニ實行スヘキモノナリ

（六）倫敦經濟會議ニ對スル三國ノ原則的方針トシテ戰債ノ完全ナル棒引、貨幣ノ安定、國際通商障礙殊ニ爲替管理手續ノ撤廢、通商ノ自由及中、東歐農產品ニ對スル特惠待遇等ヲ要求ス

（七）英、米、佛、獨、伊、羅馬尼、奧太利、波蘭、軍縮全權ヘ郵報セリ

有ルハ遺憾ナリ殊ニ獨逸ノ國力恢復ハ中歐勢力ノ變更ヲ伴フトナシ豫備戰爭ヲ叫フ者有ルハ言語同斷ナリ吾人ハ斯ル浮説ノ源ヲ止ムル爲斷乎タル措置ヲ執ル必要アリ現下ノ改革ハ純然タル國內問題ニテ對外關係ハ既存ノ條約ニ依リテ規律セラルヘク唯獨逸力對内主權ノ尊重ト對外的絕對平等待遇ヲ要求スル點並ニ之力實現ノ方法トシテ專ラ平和的手段ニ依ラントスルモノナル事ハ宰相累次言明ノ如シ

241 在チエツコ・スロヴァキア堀田公使
昭和8年6月2日 より
内田外務大臣宛（電報）

四國協約は新案文により小協商諸國への危険はなくなつたとの小協商理事会の合意について

プラハ 6月2日後発
本省 6月3日前着

第一八號

小協商理事會五月三十日ヨリ三日間當地ニ開催三國外相出席諸問題ニ付左ノ通意見合致シタル旨ヲ發表セリ

一、四大國協定ハ新案文ニ依レハ國際法ノ原則及聯盟規約ヨ

第八二號

ローマ 6月9日後発
本省 6月9日後着

（四）四國協約の仮調印および同協約要旨について

リ生スル各國ノ權利ニ反スルカ如キ規定ハ削除セラレタルノミナラス四大國殊ニ佛蘭西カ協商三國ニ對シ協定ノ目的ハ締約四國間ノ行動ニ限ラルコト聯盟權能ノ不可侵及國境改定反對ニ關スル保障ヲ與ヘタルニ顧ミ最早危險ナキニ至レリ

（五）軍縮問題ニ付テハ英國案ヲ交渉ノ基礎トスルト共ニ安全

保障ニ關スル米國大統領ノ意見ヲ満足トス只右保障ノ觀念ハ侵略國ノ定義ニ關聯シテ更ニ進展セシムルヲ要ス又軍備平等ノ原則ハ認ムルモ安全保障ノ實現ニ連レ漸進的ニ實行スヘキモノナリ

（六）倫敦經濟會議ニ對スル三國ノ原則的方針トシテ戰債ノ完全ナル棒引、貨幣ノ安定、國際通商障碍殊ニ爲替管理手續ノ撤廢、通商ノ自由及中、東歐農產品ニ對スル特惠待遇等ヲ要求ス

（七）英、米、佛、獨、伊、羅馬尼、奧太利、波蘭、軍縮全權ヘ郵報セリ

切ナル方法及手續ニ關スル一切ノ提案ヲ審議ス

三條 軍縮會議ノ成功ニ全力ヲ盡スヘシ但シ會議ノ結果特ニ締約國ニ關係スル諸問題力解決セラレサルトキハ適當

ナル方法ニ依リ解決ヲ確保スル爲本「パクト」ヲ適用シ審査ヲ再開ス

四條 聯盟規約ノ範圍内ニ於テ解決ヲ圖ル目的ヲ以テ歐洲特ニ其ノ經濟復興ノ爲共同利害ヲ有スル諸問題ニ付協議

五條 十ヶ年效力ヲ有スヘク第八年ノ終ニ於テ終了ノ通告ナキトキハ更ニ無期限ニ繼續ス其ノ後ハ二ヶ年ノ豫告ヲ以テ終了ス

六條 佛文ヲ以テ決定文トシ批准書ハ羅馬ニ寄託ス

英、米、佛、獨、白、露、壽府ニ郵送セリ

ナキトキハ更ニ無期限ニ繼續ス其ノ後ハ二ヶ年ノ豫告ヲ以テ終了ス

六條 佛文ヲ以テ決定文トシ批准書ハ羅馬ニ寄託ス

英、米、獨、白、露、壽府ニ郵送セリ

ナキトキハ更ニ無期限ニ繼續ス其ノ後ハ二ヶ年ノ豫告ヲ以テ終了ス

六條 佛文ヲ以テ決定文トシ批准書ハ羅馬ニ寄託ス

英、米、獨、白、露、壽府ニ郵送セリ

ローマ 6月9日後発
本省 6月10日前着

第六六號 往電第六五號ニ關シ

本件「パクト」「イニシヤル」ニ先チ七日上院ニ於テ伊國首相ハ左記要領ノ演説ヲ行ヘリ

四國協調ニ關スル個人的考案ハ昨夏軍縮會議ノ停頓ニ由來スルモ具体的「パクト」ハ「ロカルノ」條約ノ理論的發展ニシテ第一條ハ此ノ根本義ヲ示ス

本案ニ對スル反對ハ實質ヨリモ感情上ノ反對ナリ四國ハ之ニヨリ優越又ハ獨裁ヲ求ムモノニアラス但シ常任理事國トシテ世界政局ニ於テヨリ多クノ責任ヲ採ラントスルハ既ニ民主的ノ聯盟規約ニ於テ認メラル處ナリ

第二條ニ於テ十條十六條特ニ十九條ヲ挿入セルハ從來規約ノ補足的諸條約カ規約中ノ特種原則ノミヲ高唱シタルニ對シ全原則ヲ掲ケテ均衡ヲ得セシムル爲ナリ平和條約改訂ニ付反對論多キ處實際問題トシテ條約ヲ現實ニ適應シ改訂スルノ手續ハ今日迄行ハレ來レル處ニシテ之ヲ絕對ニ否認スルハ平和ヲ招來スル所以ニアラス

243 昭和8年6月9日 在伊國松島大使より 内田外務大臣宛(電報)

四國協約締結交渉經緯に関するムツソリニー

の上院における演説について

ロンドン 7月4日後発
本省 7月5日前着

第三六九號

新聞報ニ依レハ三日蘇聯邦「アフガニスタン」「エストニア」「ラトビア」波斯、波蘭、羅馬尼、土耳其ノ諸國ハ侵略ノ意義ヲ定メタル條約ヲ締結シ在倫敦露大使館ニ於テ調印セラレタルカ右ハ前文ニ於テ締約國ハ其相互間ノ平和ヲ更ニ鞏固ナラシムル事ヲ希望シ又「ケロッグ」條約カ侵略ヲ禁シ居ルニ鑑ミ侵略ノ口實ヲ除ク爲其定義ヲ出來ル限り正確ナラシメンカ爲ニ且總テノ國家獨立、安全保障、領土保護及諸種ノ制度ヲ自由ニ發達セシムルノ權利ヲ有スル事ヲ確認スル事ヲ希望シ且侵略ノ定義カ一般的ニ採擇セラルニ至ル迄其相互間ニ右ニ關シ明確ナル規定ヲ實施スル事有用ナリト思考シ本條約ヲ締結ストテ左ノ通り規定セル趣ナリ

一、締約國ハ一九三三年五月二十四日軍縮會議保障委員會「ポリティス、レポート」中ニ明示セラレタル侵略ノ定義ヲ受諾ス

五 欧州政況關係
244 昭和8年7月4日 在英國松平大使より 内田外務大臣宛(電報)
侵略者定義に関する八力國条約の締結について

ヲ起シタルモノヲ侵略國ト認定ス

(一) 他國ニ宣戰ヲナシタル時

(二) 宣戰ナクトモ他國ノ領土ニ軍隊ヲ侵入セシメタル時

(三) 宣戰ナクトモ其陸海又ハ空軍ヲ以テ他國ノ領土船舶又

ハ航空機ヲ攻擊シタル時

(四) 海軍ヲ以テ他國ノ沿岸又ハ港灣ヲ封鎖シタル時

(五) 他國ニ侵入スルノ目的ヲ以テ自國領土内ニ於テ組織セ

ラレタル武裝團体ニ對シ保護ヲ與ヘ又ハ被侵略國ノ要

求ニ拘ラス右保護支援ヲ解除セサリシ時

三、政治的軍事的經濟的其他如何ナル性質ヲ有スル考慮モ前

記第二條ニ示サレタル侵略ヲ是認セシムヘキ口實ト爲ス

ヲ得ス

四、批准書ハ露國政府ニ付託ノコト

尙附屬書トシテ次ノ趣旨ヲ規定ス

本條約ノ締約國ハ第三條ニ定メタル規定ノ絕對的性質ヲ
制限スルニ反對ナルコトヲ明確ニシ侵略國ノ決定ニ關シ
指針ヲ與ヘンコトヲ希望スルト共ニ同條ニ示サレタル意
義ニ於ケル侵略行爲ハ以下ニ列舉セラレタル事態ニ依リ
正當ナルモノト看做サルヘキモノニ非ストノ見解ヲ有ス

245 昭和8年7月5日 在ソ連邦大田(為吉)大使より
内田外務大臣宛(電報)

侵略者定義に関する条約の締結はソヴィエト外交

の勝利とするイズヴェスチヤなどの報道について

モスクワ 7月5日後発
本省 7月6日前着

第三七二號

五日ノ新聞ハ倫敦ニ於テ三日侵略ノ定義ニ關スル八ヶ國ノ
協定、次テ四日五ヶ國協定調印セラレタル由ヲ報スルト共

ニ八ヶ國協定ノ全文ヲ記載セルカ「イズヴェスチヤ」ハ社

説ニ於テ

倫敦會議力何等要領ヲ得サル間ニ獨リ蘇側委員ノ盡力ニ依

リ英ノ「エンバー^ゴ」ヲ解カシメ、今復タ八ヶ國及五ヶ國

兩協定ノ調印ヲ見、然モ之ニ蘇聯ト國交無キ羅馬尼、「ヨー

ゴ、スマヴィア」迄參加シタルハ蘇聯邦平素ノ平和政策ノ

勝利ニシテ「ソヴィエト」外交ノ大成功ナリ、吾人ハ啻ニ

戰争ヲ怖ル(ル)ノミナラス之ヲ憎ム者ニシテ蘇聯邦ヲ弱

者ニ見ル言ニ對シテハ吾人ハ自己ノ平和政策カ日ニ增シ國

力ヲ膨大スヘキヲ信スルカ故ニ何等之ヲ氣ニ止メサルヘシ

ト説キ又「プラウダ」紙モ社説ニ於テ今回ノ「ソヴィエト」

外交ノ成功ヲ高唱シタル上前記兩協定ト雖モ戰爭ヲ防止ス

ル能ハサルハ勿論ナルモ兎ニ角從來ノ不侵略條約ト相待テ

蘇聯邦豫テノ平和擁護運動ニ資スル處アルヘシト論シ居レリ

尚條約文「テキスト」郵送ス

在歐各大公使ニ郵送セリ

即チ

A、一國內ノ事態(政治的(事)項所謂政府ノ缺陷、同
盟寵業ニ起因スル擾亂、革命、反革命又ハ内亂)

B、一國ノ内政的措置(外國又ハ其國民ノ有スル精神的
又ハ物質的權利利益ノ毀損又ハ毀損ノ危險、外交又ハ
經濟關係ノ斷絶經濟上又ハ財政上ノ「ボイコット」、
外國ニ對スル經濟財政其他ノ契約ニ關スル紛爭、第一
條ニ示サレタル侵略ニ該當セサル國境ニ於ケル紛議)

他方締約國ハ本條約力前掲A、B、ノ事態ニ關聯シ生ス
ヘキ國際法違反行爲ヲ合法化スルモノニ非サルコトヲ確
認ス

本件條約ニ關シ「タイムス」ハ條約ノ條項カ最近起リ又將
來起リ得可キ事態ヲ考量シ其總テノ場合ニ適用有ルカ如ク
決定セラレタル事ハ興味アルモノニシテ宣戰無クシテ實際
上戰鬪行爲ヲ爲シ居タル日支紛爭及他國ニ對シ公然敵對行

爲ヲ爲サントシ居ル獨逸「ナチス」團体ノ遣ロノ如キ總テ本條約ノ適用ヲ受クルモノニシテ本條約力元來日獨兩國ニト疑ノ餘地無カル可シ何レニスルモノ本條約ハ歐洲ニ裨益スルトコロ有ル可シト述ヘ又「グアーディアン」ハ本協定力

聯盟規約制定以來累次締結セラレタル條約ニ依テ列國力兎角其決定ニ遂巡シ居タル侵略者ノ定義ヲ明確ニ規定シタル

點ニ於テ意義有ルノミナラス東歐諸國及露國力其友誼的精神性ニ基キ其相互間ニ於テ侵略ナリト認メタル事項ハ如何ナル口實ノ下ニ於テモ之ヲ爲ササルコトヲ宣言シタルモノナルヲ以テ政治的ニモ右ハ重要性ヲ有スルモノナリト論シ

「ポスト」ハ「ヒットラー」内閣成立以來其政策ニ關シ東歐諸國ハ少ナカラス懸念シ來リタルヲ以テ今般締結セラレタル二條約ハ締約國ノ一カ獨逸ニ依リ攻撃セラレタル場合

ニハ他ノ東歐諸國モ協同シテ之ニ當ル可キコトヲ暗示セシモノナリ併シテ右ニ關シ最モ注意ス可キ事態ハ「ベツサラビア」ニ對スル露國ノ態度變更セラレタルコトニシテ本件ハ少クトモ茲數年間ハ解決セラレタルモノト見做サル可ク最近ニ於ケル事態ノ發展カ露國ヲシテ多少ノ讓歩ヲ以テ羅

馬尼ニ接近セシメタルモノナルハ疑無シト述ヘ居レリ

247 昭和8年7月7日 在独國永井大使より内田外務大臣宛(電報)

ソ連の侵略者定義に關する條約締結は独ソ關係を悪化させるものではないとの独國紙の報道について

別電 七月七日発在独國永井大使より内田外務大臣宛第一三八号

侵略者定義に關する條約についての独國宣伝大臣機関紙報道について

本省 7月7日後発 ベルリン 7月7日前着

第一三七號

當國新聞ハ侵略者定義條約締結ヲ以テ露國內人心安定ヲ計ルト共ニ極東ノ事態ニ對スル考慮ニ出ツルモノトシ最近英蘇關係ノ緩和ト相俟テ露國外交ノ大成功ト論シ居レル力同條約日本ト共ニ獨逸ヲ目標トスルモノナリトノ英紙論調ニ對シテ右ハ恐ラク佛國ニ於テ侵略者ナル字句カ獨逸ヲ目

標トシ「ベルサイユ」條約保持ノ爲ニ使用セラレ居ルト露國力獨逸現政權ニ反対ナルヘシトノ假想ニ基クヘキモ露國側ハ蘇獨間取極ニ基キ本件交渉經過ヲ獨逸政府ニ逐次通報シ居タル關係アルノミナラス條約自体ノ性質上ヨリ見ルモ其ノ誤謬ナルコトハ明カナリ條約締結ノ獨逸ニ及ホス影響トシテハ從來露國ニ牽制セラレタル其ノ邊境諸國カ東方ノ形勢緩和ニ依リ西方ニ對シ壓力ヲ増スヘシトシ又羅馬四國協約ニ對抗シ露國ト其ノ邊境國ノ勢力結合ヲ作成スルモノト論スルモノアルモ(「フオス」)一般ニハ本條約ハ蘇獨關係ニ變更ヲ齎スモノニ非ス東歐事態ノ安定ハ歐洲ノ平和保持ニ一步ヲ進ムルモノトシ歡迎スヘシト見ラレ居レリ宣傳大臣機關紙「アングリフ」ハ之カ代表的ノモノトシテ別電第一三八號ノ要領ヲ掲載ス

本電別電ト共ニ在歐各大使(土ヲ除ク)及米ヘ轉電セリ

(別電)

ベルリン 7月7日後發

經濟會議行惱ミノ最大原因カ政治上ノ利害衝突ニ存シ之力列國間ノ協力ヲ不可能ナラシメ居ルヲ看過シ得サルヘシ殊ニ極東政局ハ益々緊張ヲ加フルノ觀アリ米國ハ國防ノ重點ヲ西海岸ニ移スト共ニ條約制限内極度ノ海軍充實ヲ企計シ太平洋上ノ紛爭ニ備フルノ決心ヲ爲セリ日本ハ滿洲ノ治安維持ノ一段落ト共ニ支那ニ對シ物質上精神上ノ支持ヲ提供シテ和解ヲ求メツツアルカ中央政權ノ樹立其他内政ノ建直シノ急ニ迫ラレ居ル一方日本ノ援助ナクハ國內共產派ノ活動ニ對抗シ難キ支那トシテハ右和解ノ提議ヲ永ク拒否シ得ヘキヤ疑アリ斯テ形勢甚タ不可ナルヲ看取セル蘇聯邦ハ日本ニ對シテ不可侵條約ヲ提起セルモ受諾ヲ見ス日蘇間國境ニハ事變頻發スルニ至レルカ英蘇關係ノ惡化ト共ニ日本ハ益々其地歩ヲ有利ニセリ依テ東方ノ事態ニ應スル爲蘇聯邦ハ西方背面ノ負擔ヲ輕減スルノ要アリ佛波兩國トノ不可侵條約締結及露獨伯林條約ノ延長トナレルカ今次ノ條約ハ更ニ之ヲ芬蘭ヲ除ク西南一切ノ隣接國ニ擴張セルモノニシテ東歐現狀維持上重大約定タリ露國ニトリテハ小協商ノ正式承認ヲ意味スルノミナラス有事ノ際鮮カラサル兵力ヲ東方ニ割キ得ルノ便宜ヲ有ス

本條約カ何等獨逸ノ利益ニ反スルモノニアラサルコトハ各締約國當局カ一齊ニ保障シ居ル所ニシテ小協商側新聞中露ニ我方ヘ通報シ來レルノミナラス「スター・リン」氏ハ明瞭ニ本條約カ右平和條約ノ承諾ヲ意味セサルヲ強調スルト共ニ蘇側カ之ニ依リ引受ケタル義務ハ武力侵略ヲ爲ササルノ消極的ノモノナルコトヲ明カニセリ

248 昭和8年7月7日

在スウェーデン山口(光)公使館事務
取扱より
内田外務大臣宛(電報)

侵略者定義に関する条約へのフィンランンドの
参加等に関するバルバンネ新在本邦公使の内
話について

ストックホルム 7月7日後発
本 省 7月8日前着

第四四號

芬蘭發貴大臣宛電報

第一六號

新駐日公使「バルバンネ」(前外務次官)ノ六日本官ニ對スル内話左ノ通り
一、今回蘇聯邦ハ西南接壤諸國全部ト侵略國ノ定義ニ關スル協定ヲ結ヒ相互不侵略主義ノ確立ニ成功セル處右ハ「バルチック」諸國、波蘭ヲ初メ南ハ羅馬尼、土耳其、波斯「アフガニスタン」ニ至ル迄悉ク之ヲ網羅セル頗ル大規模ノモニシテ接壤國中之ニ加入セサルハ我國ノミナルカ我國ニ於テモ來ル十日大統領カ旅行先ヨリ歸リ次第直ニ之ニ加入スヘク決定シ居レリ(「リスアニア」ハ接壤國ニアラサルモ後ヨリ之ニ加入セリ)
二、右ノ外露國ハ更ニ西南接壤國以外ノ「チエツコスロヴアキア」「ユウゴスラブ」等「ブティイ、アンタント」諸國(羅馬尼ハ接壤國ナルモ亦之ニ加入)ト同種ノ内(容)ヲ有スル別個ノ協定ヲ結ヘリ
〔^(二)〕同ノ協定ハ偶々「ベルサイユ」條約ニ依リ東歐羅巴ニ出現セル諸國領土ノ現狀維持ヲ保障スル結果佛國波蘭等ニハ良キモ其レ丈獨逸ニ取りテハ大ナル痛手ナルヘシ
四、「リトビノフ」ハ佛國訪問後更ニ進ソテ奧太利ニ至リ同國力今回ノ協定ニ對抗シ獨ト接近スルカ如キコトナキ様何

有スル別個ノ協定ヲ結ヘリ
〔^(三)〕同ノ協定ハ偶々「ベルサイユ」條約ニ依リ東歐羅巴ニ出現セル諸國領土ノ現狀維持ヲ保障スル結果佛國波蘭等ニハ良キモ其レ丈獨逸ニ取りテハ大ナル痛手ナルヘシ
四、「リトビノフ」ハ佛國訪問後更ニ進ソテ奧太利ニ至リ同國力今回ノ協定ニ對抗シ獨ト接近スルカ如キコトナキ様何

事力劃策シ居ルモノノ如シ

五一一方英露通商再開ノ交渉ハ遲々トシテ進マス最近ハ英國内ニ於テモ右通商再開ニ反対スルモノアル際ナレハ本交渉ノ成立迄ニハ尙相當波瀾アルヲ免レサルヘシ
六他方米國ハ倫敦會議不成功ノ際ハ直ニ露國承認ヲ決行スヘキ氣配ヲ示シツツアレハ英國トシテハ今後勢何等カノ形式ニ於テ對獨接近ヲ計ルニ至ルヘシ何レニシテモ今回ノ協定成立ハ全ク露國外交ノ大勝利ナリ

尙四日「ヘルシンギン、サノマット」紙ハ三日佛國外相「ボンクウル」ハ在巴里芬蘭公使ヲ招致シ同國ノ協定加入ヲ極力勧説シタル旨報道セリ
英、米、露ニ轉電シ佛、獨ニ暗送セリ

249 昭和8年7月11日

内田外務大臣より
在ソ連邦大田大使宛(電報)

侵略者定義に関する条約締結後のベッサラビア

ア問題に関するソ連側意向調査方訓令

本省 7月11日後9時0分発

貴電第三七二号ニ關シ
八ヶ国協定及五ヶ国協定ノ内容ヲ正確ニ承知シタキニ付右大要締約國名ト共ニ電報アリ度ク尚「ソ」政府ハ右協定ニ依リテ「ベッサラビア」問題ニ関スル從來ノ主張即チ全地方ニ对スル羅馬尼ノ主權ヲ認ムルモノニアラサルモ武力ニヨリテ之ヲ争フコトナク専ラ平和的手段ニヨリテ解決セントルモノナリトノ建前以上ニ更ニ羅馬尼ニ讓歩シタルモノナルヤ適當ノ機會ニ夫レト無ク右ニ関スル「ソ」側ノ意向ヲ探ラレ結果電報有リ度シ
本電参考ノ為羅馬ニ轉電有リ度シ

250 昭和8年7月15日 在ソ連邦大田大使より

内田外務大臣宛(電報)

ベッサラビア問題に関するソ連の態度は変更
なしどのソ「リニコフ」の内話について

モスクワ 7月15日後発

本省 7月16日前着

第二〇七號

貴電第二〇七號後段「ベッサラビア」問題ニ關シ

十五日「ソコルニコフ」ヲ往訪ノ際北京條約附屬書ト倫敦條約（トノ）關係ヲ説キ質問ヲ試ミタル處「ソ」（ハ）該問題ニ關スル蘇側從來ノ態度タル人民投票ニ依ル可キコトニ付テハ何等ノ變化無ク過般倫敦ニ於テ條約商議（往電第三七二號）ノ際ニ於テモ双方トモ本問題ニ言及スル處無力リン旨答ヘタリ

（轉電先脱？）

251 昭和8年7月24日 在仏國長岡大使より
内田外務大臣宛（電報）

侵略者定義に関する条約への仏國の參加問題

などに關する新聞報道について

パリ 7月24日後発
本省 7月25日前着

往電第三一三號ニ關シ

「ヘンダーソン」議長廿二日朝「ミュンヘン」ヨリ來巴直ニ「ボンクール」外相ト會談（「ポリチス」副議長モ列席）即日歸倫セルカ新聞報ニ依レハ「ヘンダーソン」ヨリ伊、

第三三四號

「ヘンダーソン」カ柏林ノ新聞記者會見ニテ述ヘタル「ダラディエ」、「ヒットラー」會談ニ付テハ當地新聞ハ眞面目ニ取合ハサル様見受ケラルルカ前日閱議ノ爲歸巴セル首相ハ「ヘ」ノ來巴ニ拘ラス其ノ儘避暑地ニ歸レリ又右會談ノ機會ニ外相ハ「ポリチス」ト七月五日ニ倫敦ニ於テ署名セラレタル侵略者定義協定ニ佛國加入ノ問題ヲ話シタルカ外相ハ右加入ニ異議ナキモ地方的ナル同協定力如何ナル程度迄歐洲協定トナリ得ヘキカニ付他ノ西歐諸國ノ意嚮ヲ尋ヌル必要アリ即チ西歐諸國ノ一ノミカ同協定ニ加入スルニ於テハ意味ナカルヘシトノ意嚮ナリト新聞ニ傳ヘラル

壽府、英、獨、伊、白へ轉電セリ

252 昭和8年8月7日 在ルーマニア水野（伊太郎）臨時代理
公使宛（電報）

ベツサラビア条約批准問題に対する我が方対応につき回訓

本省 8月7日後0時20分発

第九號

貴電第一六号ニ関シ

羅馬尼カ「ソ」側ノ提唱ニヨリ倫敦ニ於テ締結セラレタル侵略國ノ定義ニ関スル條約ノ当事国トナレル為外國新聞中ニハ「ソ」政府カ「ベツサラビヤ」問題ニ付從來ノ態度ヲ変更シ羅馬尼ニ対シ讓歩ヲナシタルモノナリト傳フルモノ

アリ仍テ右ニ付「ソ」側ノ意向探査方針「ソ」大田大使ニ訓令ノ結果（本大臣發露宛電報第二〇七号末段参照）全大使ヨリ本大臣宛電報第三九五号（露ヨリ轉電アリタル筈）ノ通り報告アリ旁々帝国政府トシテハ差当リ本件條約ノ批准問題ニ關スル從來ノ態度（昭和四年往電第一〇号）ヲ変更スル必要ヲ認メサル次ニシテ近ク御批准ヲ奏請スル意向アリトノ新聞報道ハ事実無根ナリ

本電及冒頭貴電在露、英、仏、伊各大使へ轉電アリタシ

253 昭和8年9月5日 在伊國松島大使より
内田外務大臣宛（電報）

イソ不可侵条約の締結およびその要點について

ローマ 9月5日後発

本省 9月6日前着

第九七號

二日伊蘇間和親不可侵及中立ニ關スル「パクト」伊首相及在伊蘇聯邦大使間ニ署名セラレ四日公表セラル要點ハ

(一)不侵略及領土ノ不可侵
(二)第三國ノ侵略ニ對シ全紛爭中々立維持
(三)經濟不侵略

四相互間ニ於テ外交解決ヲ爲シ得サル問題ハ和解手段ニ依ルコト
ノ四點ヲ約スルモノニシテ條約ノ効力ハ五箇年其ノ後ハ一年ノ豫告ニテ終了ス

~~~~~

254 昭和8年9月8日 在伊国松島大使より  
内田外務大臣宛

伊ソ不可侵条約中の中立条項の背景にはソ連の我が國およびドイツとの確執に対する考慮ありとの観測について

機密第一三七號

昭和八年九月八日

(10月7日接受)

在伊

特命全権大使 松島 肇〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

伊蘇不侵略協約ニ関スル件

今回伊蘇両國間ニ和親、不侵略及中立ニ関スル協約ノ締結セラルニ至リタル誘因ニ関シテハ第三國ノ両国ニ對スル

利害關係如何ニ依リ其見解ヲ異ニスヘク又両国政府各其ノ特異ノ思惑ヲ有スルモノト思考セラル

伊国側ニ於テハ「ムツソリーニ」首相ハ本協約ハ曩ノ英佛獨伊四國協定ニ於テ伊國ノ企図シタル歐洲平和政策ノ自然ノ延長擴充ニ外ナラスト爲シ各新聞紙ハ其ノ歐洲平和ノ確保ニ貢獻スル所大ナルヘキヲ誇張スルト同時ニ「ムツソリ」

ニ首相ノ外交上ノ成功ナリトシテ讚辞ヲ呈シ居ル處本年初夏本協約締結ノ噂世間ニ傳ヘラレ始メタル頃ニ於ケル在當地蘇聯邦大使ノ口吻ニ徵スルニ本協約ハ蘇聯邦側ヨリ提起セラレタルモノト推断セラル節アリ而シテ蘇聯邦力本協約ノ締結ヲ提議シタル理由ハ波蘭佛國其他隣接諸国ト本国ト事ヲ構フルノ不利ヲ避ケムトスル魂膽ニ互ルモノト思考セラレ殊ニ伊蘇両國間ノ比較的良好ナル經濟關係ヲ切掛ニ蘇聯邦力從來屢壽府ニ於テ提議シタル經濟不可侵ニ関スル条項ヲ他ノ類似ノ條約ニ於ケルヨリモ一層精密ニ本件協約中ニ組込ミタルモナリトノ感ヲ深カラシム

極東ニ於ケル日蘇両國間ノ關係及「ヒツトラー」政權樹立後ニ於ケル蘇獨間ノ疎隔ニ顧ミ本件協約中ノ中立ニ関スル条項ハ蘇聯邦ノ立場ヨリ見ルトキハ差當リ本邦又ハ独逸トノ確執ヲ考慮シタルモノト思考セラレ殊ニ蘇獨ノ關係ニ就テ之ヲ見ルトキハ独伊間特殊ノ交情關係ニ拘ラス独蘇衝突ノ際伊国力中立ヲ守ルヘキコトヲ明ニスルコトニ依リ独逸

「ナチス」ノ蘇聯邦ニ対スル無謀ノ暴舉ヲ牽制スルノ効果

アルト同時ニ場合ニ依リテハ伊国ヲシテ独逸ニ対スル特殊

關係ヲ利用シテ独蘇ノ間ニ仲裁ノ勞ヲ採ラシムルコトモ之ヲ想像シ得ヘシ

翻テ伊国ノ立場ヨリ本件協約ヲ觀察スルニ全國ハ蘇聯邦程ニ本協約ノ必要ヲ感シ居ラサルコトハ新聞紙ノ論調ニ見ルモ略明瞭ニシテ只蘇聯邦ヲ度外視シテハ歐洲平和ノ確保困難ナルコトニ想到シ且英佛獨伊四國協定成立ノ當時蘇聯邦ニ於テ同協定ハ歐洲ニ於ケル四國ノ独裁制ヲ樹立スルト同時ニ西欧資本ノ「ソヴィエト」ニ対スル共同戰線ヲ張ルモノナリトテ暗ニ伊国首相ヲ批難スルモノアリシニ鑑ミ其ノ批難ノ當ラサルコトヲ示ス意味ニ於テ本件条約ヲ締結スルヲ得策トシタルモノノ如ク是伊国首相力協約ノ調印ニ際シ本協約ハ四國協定ニ於テ伊国ノ企図シタル平和政策ノ自然ノ延長拡充ナリト声明シタル所以ナリト思考セラル

尚伊国ハ其産業復興政策各種事業ノ電化政策ニモ拘ハラス石炭石油穀物等ニ於テ外國品ノ輸入ニ待ツモノ多キ處本件協約ノ經濟条項ニ依リ蘇聯邦ヨリノ輸入ニ対シ蘇側ノ保障ヲ取付ケタル点ハ伊国カ本協約ニ依リ享クル利益ノ一トシ

255 昭和8年9月25日 在ボーランド平田(稔)臨時代理公使

右御参考迄報告申進ス

テ数フルヲ得ヘシ

255 昭和8年9月25日 在ボーランド平田(稔)臨時代理公使

広田外務大臣宛(電報)

ソ連の仮・ポーランドへの接近は極東状勢に

対する不安によるとの情報について

付記

九月一日発在ソ連邦河辺(虎四郎)大使館付武官より植田(謙吉)參謀次長宛電報蘇第六六号

エリオ前仮首相の訪ソに関する各種風説について

ワルシャワ 9月25日後発

本省 9月26日前着

第六二號

「エリオ」ニ次キ佛國航空大臣佛國飛行家ノ訪露ハ佛蘇間ノ接近顯著ナルヲ示シ他方波蘇關係モ近時著シク改善セラレタル折柄當國外相ハ佛國側ノ招待ニ依リ九月廿日大統領及外務大臣ト會見セリ

セントスルハ將來三國間ニ政治同盟ヲ結ハントスル底意ア  
ルカ爲ニシテ又蘇カ極東ニ於テ不安ヲ感スル折柄西歐隣接  
國ト鞏固ナル關係ヲ作り西部國境ノ不安ヲ一掃シ以テ國力  
ノ充實並極東ニ對シ充分ノ準備ヲ爲サントスルモノナリト  
ノコトナリ

右不取敢  
獨、佛及露へ暗送セリ

(付記)

モスクワ 9月1日後0時25分発  
参謀本部 9月2日後0時15分着

蘇第六六號

エリオハ八月二十四日オデツサニ上陸以來、ウクライナ各地

ヲ經調查シツツアリ彼ノ訪蘇ノ目的ニ就キ當地説ヲナスマ  
ム多シ蘇國ヨリ申込マレタル新「クレジット」ヲ成立セシ  
ムヘキヤ否ニ就キ親シク蘇國產業發展ノ情況ヲ視察スルニ  
在リト謂ヒ或ハ政治的ニハ四國條約ヨリ離脱スル爲ノ工作  
ナリト稱セラル

又佛國ヲ中心トシテ土耳其、蘇國、波蘭等ヲ密接ニ連繫セ

シメントスル工作ナリトモ謂フ何レニセヨ單ニ對独逸ノ示  
威運動上ニ何等カノ物質的成果ヲ結フモノナラント謂ハル  
彼力特例的ニ<sup>1</sup>スターント會見ヲ爲スコトハ確実ナルカ如  
シ

256 昭和8年10月7日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

日仏關係については今後も親善關係の持続を

望むとの仏国外相の内話について

ジュネーヴ 10月7日後発  
本 省 10月8日前着

軍第六二五號

佐藤ヨリ

往電軍第六二四號會談ニ關シ別ルルニ臨ミ佛外相ハ日支問  
題ニ付聯盟ニ於テ佛ノ採リタル態度ハ當時屢々自分ヨリ貴  
大使ニ說明セル如ク決シテ日本ヲ目途トシタルモノニ非ス  
歐洲ニ於テ他日同様ノ事件發生ヲ防止セんカ爲聯盟規約ノ  
完全ナル適用ヲ主張シタルニ過キス從テ佛國ノ態度ニ拘ラ  
ス日佛間ノ國交ハ依然親善關係ヲ持續センコトヲ希望スル

モノニシテ新ニ赴任スル駐日佛大使「ピラー」ニ對シ此ノ  
點ニ關シ日本側ニテ何等誤解無キ様説明スヘキ旨申含メ置  
キタル由語レリ  
米ヘ轉電シ在歐各大使へ暗送セリ

257 昭和8年10月9日 伊藤連盟事務局長代理より  
広田外務大臣宛(電報)

侵略者定義問題に關するポリチズとの会見に  
ついて

ジユネーヴ 10月9日後発  
本 省 10月10日前着

第一〇一號(極秘級)

<sup>(1)</sup> 往電第八三號冒(頭) 會談要領軍縮全權ノ御注意ニ依リ電  
報ス

「本官ヨリ侵略者定義ニ關スル「ポリチズ」案ハ條約ノ一  
部ヲ爲スニ至レルヤト尋ネタルニ「ボ」ハ恐ラクハ然ル  
ヘシ右定義力既ニ露國等十ヶ國ノ條約ト爲レルハ其ノ將  
來ニトリ意義重大ナリト答ヘタルニ付本官ハ(1)右定義ノ  
形式的ナルヲ指摘シ(2)制裁ノ伴ハサル侵略者ノ決定力實

際上ハ却テ國際關係ヲ惡化スルニ止マリ(1)制裁ノ適用ハ  
小國ニ對シテハ可能ナルモ大國ニ對シテハ世界的渦亂ヲ  
惹起スルコトトナル(2)定義ノ餘リニ形式的ナル時ハ侵略  
行爲ト認メラル行動ニ出テタル國ヲシテ斯ノ如クニ至  
ラシメタル事情ヲ充分ニ參酌セス從テ世界政治ノ實情ニ  
適應セサルコトアルヲ述ヘタルニ「ボ」ハ右諸點ニ對シ  
(1)侵略者定義ハ一九二四年壽府「プロトコール」ノ夫レ  
ト異ナリ侵略者ノ決定ト制裁トヲ分離シ其ノ決定ハ必ス  
シモ制裁ヲ伴フモノニ非サルヲ以テ「プロトコール」ノ  
夫レヨリ一層形式的ト爲シタリ(2)侵略者ノ決定ハ對獨平  
和條約等ト異ナリ一方的ニ之ヲ押付クルモノニ非ス紛争  
當事國ニ對シテ第三者カ之ヲ判定スルモノナレハ國際關係  
ヲ惡化スルモノトハ言ヒ得サルノミナラス侵略者ニ對  
シ世界輿論ヲ動員セシムルコトヲ得ヘシ(3)制裁ノ適用力  
世界的渦亂ヲ惹起スルカ如キ時ニハ之ヲ適用セサルヲ可  
トスレハコソ侵略者決定ト制裁トヲ分離シタリ(2)侵略者  
ノ定義ハ各事件ニ對シ國際機關判定ノ準據トナルモノニ  
シテ一國領土ノ侵入ノ如キコト明白ナル時ハ別トシテ複  
雜ナル場合ニハ紛争當時國ハ各自其ノ事情ヲ國際機關複

前ニ開陳スルノ権利アリ其ノ際ハ情狀酌量スヘキモノアリトセハ國際機關力侵略者決定後制裁ノ適用セラルヘキヤ否ヤヲ決定スルニ影響スル處大ナルヘント答フ  
二、依テ本官ハ侵略者定義ハ同程度ノ文化及權利義務觀念ノ發達セル國家間ニハ適用セラルヘキモ文化ノ頗ル異ナリ法律秩序ノ無キ所ニ於テハ満足ニ適用シ得ストテ南滿鐵道附屬地守備軍ノ附屬地外出動ノ一例ヲ引キテ其ノ説明ヲ爲シ右定義ニハ日本ハ決シテ之ニ賛成シ得サルヘシ右ニ賛成スルハ最近滿洲ニ於テ執レル行動ヲ否定スルニ等シキ事トナラント言ヘルニ「ボ」ハ正當防衛ノ場合ニハ侵略トナラスト答ヘタルヲ以テ進シテ若シ侵略者定義力世界中ニ採用セラルレハ世界ノ法律的現狀打破行爲ハ總テ侵略行爲ト認メラレ世界ヲ沈滯セシメ資源領土共ニナル國ニハ利益有ルモ進化ノ途上ニ在ル國民ニトリテハ不利トナルニ非スヤト言フヤ「ボ」ハ現狀ノ平和的調整ハ規約第一九條ヲ利用シ得ヘシト答ヘタリ

三、次テ本官ハ安全規定ニ付組織有リ秩序有ル國家ノ或地域ニハ之力適用ヲ爲シ得ルモ國內ノ混亂ヲ常トシ關係列強カ右混亂ヨリ來ル危險防止ノ措置ヲ執ラサルヲ得サル力不利益有ルモ進化ノ途上ニ在ル國民ニトリテハ不利トナルニ非スヤト言フヤ「ボ」ハ現狀ノ平和的調整ハ規約第一九條ヲ利用シ得ヘシト答ヘタリ

三、次テ本官ハ安全規定ニ付組織有リ秩序有ル國家ノ或地域ニハ之力適用ヲ爲シ得ルモ國內ノ混亂ヲ常トシ關係列強カ右混亂ヨリ來ル危險防止ノ措置ヲ執ラサルヲ得サル力

世界中ニ採用セラルレハ世界ノ法律的現狀打破行爲ハ總テ侵略行爲ト認メラレ世界ヲ沈滯セシメ資源領土共ニナル國ニハ利益有ルモ進化ノ途上ニ在ル國民ニトリテハ不利トナルニ非スヤト言フヤ「ボ」ハ現狀ノ平和的調整ハ規約第一九條ヲ利用シ得ヘシト答ヘタリ

三、次テ本官ハ安全規定ニ付組織有リ秩序有ル國家ノ或地域ニハ之力適用ヲ爲シ得ルモ國內ノ混亂ヲ常トシ關係列強カ右混亂ヨリ來ル危險防止ノ措置ヲ執ラサルヲ得サル力

世界中ニ採用セラルレハ世界ノ法律的現狀打破行爲ハ總テ侵略行爲ト認メラレ世界ヲ沈滯セシメ資源領土共ニナル國ニハ利益有ルモ進化ノ途上ニ在ル國民ニトリテハ不利トナルニ非スヤト言フヤ「ボ」ハ現狀ノ平和的調整ハ規約第一九條ヲ利用シ得ヘシト答ヘタリ

世界中ニ採用セラルレハ世界ノ法律的現狀打破行爲ハ總テ侵略行爲ト認メラレ世界ヲ沈滯セシメ資源領土共ニナル國ニハ利益有ルモ進化ノ途上ニ在ル國民ニトリテハ不利トナルニ非スヤト言フヤ「ボ」ハ現狀ノ平和的調整ハ規約第一九條ヲ利用シ得ヘシト答ヘタリ

258

昭和8年10月13日 伊藤連盟事務局長代理より  
広田外務大臣宛(電報)

歐州政局に対する見通しにつきベネシユ外相  
との会談について

ジュネーヴ 10月13日後発  
本 省 10月14日前着

第一〇九號

十三日「ベネシユ」ト會談同外務大臣ハ軍縮問題ノ外歐洲政局ニ關シ大要左ノ通り述ヘタリ何等御参考迄  
一、「ヒツトラー」ノ外交ハ表面ハ「スープレックス」ヲ示サントシツツアルモ實質ハ其ノ累次ノ聲明通ニ實行セントスルニアリ其ノ方法トシテ目下ハ蘇聯ト同様合併ヲ希望

三、蘇聯カ波蘭ト不侵略條約ヲ締結シタル理由ノ一ハ右ノ如キ譯ニ付双方共現狀維持ヲ爲シ獨逸ノ東方進出ニ備フルコトト爲シ居ル次第ナルカ右ハ蘇聯ヨリ見レハ極東ノ形勢頗ル急ナルモノアルニ付歐洲方面ハナルヘク問題ヲ無クセントノ底意ヨリ出テタルモノニシテ對日關係ノ反映ト見ル方適當ナルヘシ  
最近「エリオ」ノ莫斯科方面並ニ歸佛後ノ演說等ハ右ニ關聯シ居ルト云フヨリハ寧ロ一ヶ年前佛國カ全然國際場裡ニ於テ孤立セシ時代ノ首相トシテ其時代ノ危惧ノ念現ハレ特ニ「ヒ」現出(ニ)ヨリ益益其ノ意ヲ強クシ右ノ如キ行動ニ出テタルモノト解セラレ餘リ重キヲ置ク程ノコトニ非サルヘシ  
在歐米各大使、智ヘ暗送セリ

ニシテ其ノ背後ニ伊國ノ聲援アルコト明瞭ナリ  
特ニ獨逸ハ戰前ヨリ「ウクライナ」ヲ露國ヨリ離サントノ野心ヲ有シタルカ「ヒ」モ右傳統ヲ繼承シタルニ過キ  
サルカ同地ニ對シテハ波蘭モ野心アルノミナラス露國ニ取リテハ死活問題ナレハ茲ニ自然蘇波ノ接近ヲ來シタル

如キ地方ニ於テ安全ノ觀念ヲ認ムル事ハ困難ナリ右理由ニ依リ安全規定ハ歐洲ニノミ限局セラルヘキモノナリト言ヘルニ「ボ」ハ日本ヲ除ク亞細亞ノ諸國ハ孰レモ本規定ノ普遍化ヲ可トスルモノニシテ之ヲ單ニ「ヨーロッパ」規定トスル事ハ甚々困難ナリト言ヒ微笑シツツ之等亞細亞ノ諸國コソ正ニ侵略ヲ恐ルル國ナリト附言セリ

ノ野心ヲ有シタルカ「ヒ」モ右傳統ヲ繼承シタルニ過キ  
サルカ同地ニ對シテハ波蘭モ野心アルノミナラス露國ニ取リテハ死活問題ナレハ茲ニ自然蘇波ノ接近ヲ來シタル

259 昭和8年10月18日 在獨國永井大使 在ソ連邦大田大使(電報)  
在歐米各大使、智ヘ暗送セリ

本省 10月18日後0時10分発

合第一九〇二號（極秘）

今回獨逸力軍縮會議ヲ脱退シ更ニ聯盟脱退ヲ聲明シタルニ就テハ今國ト他ノ歐洲諸國殊ニ佛國トノ関係力緊張ノ度ヲ増スヘキハ勿論ナル尙右ノ結果「ソ」獨關係ニ如何ナル影響アルヤハ現下ノ日「ソ」関係トモ関聯シ深甚ナル注意ヲ要スル点ナルニ付両國關係最近ノ実相ト共ニ此点ニ闇スル御見込電アリタシ

本電宛先、露、独、

佛へ轉電セリ

260 昭和8年10月19日 在米國出淵大使より  
広田外務大臣宛（電報）

獨國の軍縮會議および連盟からの脱退はソ連  
にとてはむしろ好都合とのニュー・ヨーク・

タイムズのモスクワ特派員報告について

ワシントン 10月19日後発  
本省 10月20日前着

第七五二號

パリ 10月20日前着  
本省 10月20日後着

第四九二號

去ル八月中旬「ピエール、リヨチイ」ト會談中「リヨチイ」ハ其ノ當時「ソビエット」大使「ドブガレブスキイ」氏力頻リニ「ケイ、ドルセイ」ヲ訪問シ極東ニ於テ蘇聯邦カ益々

261 昭和8年10月20日 在仏國沢田（廉三）臨時代理大使より  
広田外務大臣宛（電報）

仏国内に流布されている日ソ・日独關係に関する各種風説について

パリ 10月20日前着  
本省 10月20日後着

日本ノ壓迫ヲ感シツツアルコトヲ述ヘ佛國モ軒テ支那ニ於ケル其ノ利益又ハ印度支那ニ對シ同種ノ脅威ヲ受クルニ至ルヘキヲ以テ極東ニ於テ露佛共同ノ「フロント」ヲ作リテ日本ニ當ルコトノ必要ナル所以ヲ說キツツアル旨ヲ話シタルカ素ヨリ之カ直接ノ影響ニ非サルヘキモ其ノ後幾何モナクシテ「エリオ」氏及航空大臣「コット」氏ノ蘇聯邦訪問トナリ最近「ビシイ」ニ於ケル政府與黨タル急進社會黨大會ニ於ケル「ダラディエ」首相ノ外交演説中軍縮ノ基礎案ニ付右案ハ英、米、伊ノ外露國モ賛成シ居ル所ナリトテ最近ノ巴里會談等ニ表面ノ關係無カリシ露國ノ名前ヲ特ニ述べテ一般ノ注意ヲ惹キタルコトアリ（往電第四六九號參照）最近ニハ「ソビエット」側ヨリ「エリオ」氏ニ對スル答禮「ミツシヨン」ノ派遣アルヘシトノ噂モアリテ過去數ヶ月間ノ露佛間ノ事象ヲ顧ミ兩國接近ノ度ハ漸次濃厚トナリツツアルハ觀取スルニ難カラス

然ルニ最近突然獨逸力聯盟脱退ノ聲明ヲ爲スヤ當國一部ニハ獨逸ハ右決定前日本ト話合ヒタル所アリトノ說ヲ爲ス者アリ更ニ議會ニ出入スルニ、三當國ノ新聞記者ノ齊ス所ニ依レハ十七日議會再開以來議會廊下ニ於テ議員間ニハ「ヒ

トラー」力軍縮會議脱退ノ聲明中特ニ「コンミニズム」ヲ唯一ノ仇敵ナリト述ヘ居ル點ヲ指摘シ極東ニ於テ將ニ露國ト戰戈ヲモ開カントスル日本ノ態度ト一味相通スルモノアリトノ噂頻リナル趣ニテ右ハ日本力速ニ起チテ蘇聯邦ニ一擊ヲ加ヘンコトヲ熱望スル當地在留白系露人力吹聽スルニ基クモノナラントノ觀測モアリシカ豫テ議會内ニ成立セル日佛團（「グルーブ、フランコジャボネイズ、ハルムンティル」）ノ中心トナリ居ル代議士「ペシヤン」氏ハ十八日本官ニ對シ右議員間ニ於ケル日露開戰及日獨謀合ノ噂ハ矢張リ豫テ日本ニ好意ヲ有セサル社會黨及社會急進黨一派カ流布シツツアル所ニシテ此ノ一派所屬ノ代議士ニシテ最近當地蘇聯邦大使館ニ出入スル者多クナリツツアル事實ヲ見テモ明カナルヲ述ヘタル上彼等ノ背後ニハ富裕ナル猶太人アリテ此ノ種運動ノ援助ヲ爲シツツアリトノ風説モアリ何レニスルモ社會黨一派カ該情報ノ傳播ニ依リテ一方ニハ日本ヲ獨逸ト同一視スヘシトシテ日本ニ對スル一般ノ反感ヲ増サシメ他方ニハ日蘇開戰近シトシテ益佛蘇ヲ接近セシムル素地ヲ固メ行カントスルモノナリ故ニ日本トシテハ彼等ニ乘セラルヘキ口實ヲ

與ヘサル様努メラルコト肝要ナルヘキヲ語リタリ「ペシャン」氏ニ對シテハ日獨聯絡ノ如キハ東京ヨリノ新聞情報ニモ見ユル通リ日本側ニテハ打消ノ勞ヲ執ルニモ值セサル虛構ノ報道ナリト看做シ居ル次第ヲ述ヘ置キタルカ最近ノ佛蘇並佛獨關係ニ絡ミ兔角日本ヲ引合ニ出サントスル當方ノ情勢御参考迄

262 昭和8年10月21日

在独國永井大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日獨默契説は打ち消されたが今後も日獨接近説が流布される危険があるため注意を要する

旨意見具申

ベルリン 10月21日後発  
本省 10月22日前着

貴電第九六號ニ關シ

本省ヨリ既ニ日獨默契云々ノ報道ヲ打消サレ又獨逸ノ脱(退)ニ依リ日本ノ聯盟ニ對スル態度ニ何等變更無キヲ聲明シ居ラル次第ナルモ露國側ニ於テハ其ノ一流ノ論法ニ

263 昭和8年10月21日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ドイツの軍縮會議および連盟からの脱退によ  
る日ソ関係への影響は認められず日本は日本

親交を増進すべきとの意見具申

モスクワ 10月21日後発  
本省 10月22日前着

貴電合第一九〇二號ニ關シ  
第五四四號(極秘)

一、蘇聯カ從來軍縮會議ニ對シ揶揄的態度ヲ示シ又國際聯盟ニ對シ反抗的態度ヲ取り來レル點ヨリ推セハ獨逸ノ軍縮會議及聯盟脫退ハ蘇聯ニ痛快味ヲ感セシムヘキモ之ニ依リ直ニ蘇ノ對獨態度ニ變更ヲ來スヘシトハ認メ難キカ如

ク之ニ反シ獨逸ノ對蘇態度ハ漸次親善增進ニ轉回ス可キコト其對佛關係ヲ始メ東部國境問題等ニ鑑ミ豫想シ得可キ力如シ即チ「ヒツトラー」政府ノ共產分子彈壓工作ハ蘇聯トシテ全然無關心ナルヲ得サル所ナリト雖モ斯ル國內問題ノ爲獨逸ト事ヲ構フルハ其國際政局上一層欲セサリシ所ナル爲寧ロ隱忍シテ「ヒツトラー」政府カ冷靜ヲ取り返ス可キ時期ヲ待望セルモノノ如ク觀測セラレタルモ「ヒツトラー」其他政府及國粹黨幹部ノ反蘇的言動「ローゼンベルグ」ノ「ウクライナ」分割論及倫敦經濟會議ニ於ケル「フレンベルグ」ノ覽書發表等ニ依リ蘇聯ハ獨逸ノ對蘇方針中ニハ反共產以外尙領土の野心ヲモ包藏セルモノ有リト疑フニ至リ漸次隱忍的態度ヲ破ラントル傾向ヲ示シ或ハ正式抗議ヲ提出シ或ハ新聞論説ニ於テ獨逸ノ態度ヲ攻撃スル一方共產黨ト社會民主黨ノ對「ファシズム」共同戰線組織ヲ企圖シ他方佛、波ニ接近シ獨逸ヲ牽制スルノ方策ヲ取ルニ至レルカ

佛ハ又此機ヲ利用シ侵略定義ニ關スル八箇國條約及「リトイノフ」巴里訪問等ノ機會ニ於テ大イニ對蘇好感ヲ示シ又九月ニ入りテ「エリオ」及航空大臣「コット」ノ

蘇聯來訪トナリ(當地佛大使「アルファン」ハ「エリオ」ト懇意ノ間柄ニ在リ七月初旬着任直ニ歸佛シ右ノ訪問ヲ「アレーンヂ」セルモノノ如シ)蘇佛間ニハ戰前債務及航空ニ關シ或種ノ諒解成立セリト迄傳ヘラレ又蘇波間ニハ蘇聯工業代表「カール、ラデツク」(波蘭ノ招請ニ應シ新聞及文學大會ニ出席ス)及蘇聯飛行機ノ波蘭訪問並ニ波蘭飛行機ノ蘇聯訪問有リ其結果蘇聯ノ對波註文增加スルニ至レル事實モ有リ蘇佛、蘇波關係ハ近來共ニ面目一新セル觀アリ此間獨逸ハ九月末伯林警察ノ蘇聯人俱樂部手入及蘇聯通信員逮捕問題等ヲ起シ蘇聯ヨリ在獨蘇側通信員ノ引揚ヶ及在蘇獨逸通信員ノ退去等ヲ以テ酬ヒラレタリト雖モ前記ノ如キ形勢ニ對シ無爲ニ終ル可シトハ想像シ難ク殊ニ今次軍縮及聯盟ノ桎梏ヲ脫シ軍備ノ充實ヲ計畫スルト同時ニ東部國境問題及對歐問題ノ解決ニ向フ可キ結果早晚出來得ルタケ親蘇方針ニ轉回セントスル大勢ニ在リト觀測シ得可ク右ハ「ヒツトラー」ノ執權以來一面共產黨彈壓工作ヲ爲スモ他面伯林中立(一種ノ不侵略條約)延長ニ關スル一九三一年ノ議定書ヲ批准セル外蘇聯トノ親善關係殊ニ其經濟關係增進ノ意圖ナル旨聲

明シ現ニ信用協定ヲ延期シ或ハ新信用ヲ附與スル等ノ措置ヲ取レルコトニ依リテモ看取シ得ルカ如シ

而シテ此場合蘇聯ノ向背ヲ考フルニ元來蘇聯トシテハ本質的ニ獨逸ヲ憎ムモノニ非ス且經濟上技術上密接ノ關係ヲ有スル上ニ土耳其並ニ沿「バルチック」諸國ニ對スル關係モ有リ現ニ「エリオ」來訪ニ際シ所謂蘇聯共產黨ノ

「スボーグスマン」ト稱セラルル「ラデツク」ハ「ベルサイユ」カ「ラッパロ」カナル論說ニ於テ蘇聯ハ「ラッパロ」ノ味方ナル旨ヲ説キ又「復興セル」「ポーランド」ト蘇聯ナル論說ニ於テ蘇聯ハ歐洲ノ現國境ヲ必

スシモ正當ト認メ居ラストノ主旨ヲ述ヘ波蘭ノ不興ヲ買ヘルカ之等ノ點ヨリ推斷セハ獨逸ノ接近ヲ無下ニ排斥セ

サル可ク然リトテ既ニ佛波側ヘハ前記ノ如ク或ル程度ノ關係ヲ生シ居ル上ニ獨ト結フニ於テハ佛獨間有事ノ際隣接國タル波蘭ヲ敵トセサルヲ得サル不利有ルヲ以テ獨逸

ノ差出セル手ヲ無條件ニ握ルニハ躊躇スヘク從テ獨逸トシテハ自己ノ必要上蘇聯ニ接近ヲ求ムル事有リトスルモ

蘇聯トシテハ出來得ルタケ不即不離ノ態度ヲ持シ其間他ノ關係ニ累ヲ及ホササル程度ニ於テ獨逸トノ關係改善ニ

努ムルニ非スマト想像セラル

上述ノ如ク蘇聯ノ態度及地位ハ獨逸今次ノ脫退ニ依リ影響ヲ受ケサルヘク又蘇聯自體トシテモ現在此ノ事態ニ處

スヘキ何等新企畫ヲ有スルモノト思ハレサル次第ナルニ付其實行方針モ黨内何レノ方面ヲ論セス大ナル變化ナカルヘク從テ我對蘇方針ハ右事情ヲ明察シテ定ムルヲ妥當

ト認ムル處我國內一部ニ行ハルル反蘇的意見乃至態度ハ百害アリテ一利ナキコト今更縷述ノ必要ナク之ニ反シ蘇聯トノ親交關係ヲ增進セハ對日貿易經濟關係ノ改善及對

蘇軍備ノ漸減ヲ企圖シ得ヘク他日滿蒙ノ治安維持及開發ニ裨益アル上ニ支那ノ策動ヲ制シ我對支工作ノ一助タラシムルヲ得ヘント信ス尙將來我國力万一大英米ト對峙スル

力如キ場合アリトセハ後顧ノ憂ヲ減スルノミナラス英ヲシテ却テ蘇聯力印度及西藏ニ策動スルコトアルヘキヲ恐レシムル效果ナキニシモ非ス

四、且現在米國ノ對蘇承認問題ハ幾分我國民ノ神經ヲ刺戟シ居ル傾アルモ斯ノ如キハ日蘇關係ノ圓滿ヲ缺ク（脱？）ナルト共ニ日蘇親交增進ニ依リスル國民的不安ヲ解消セシメ得ヘク是等ノ諸點ヲ考量セハ我國トシテハ一時モ速

ク此ノ方針ニ基キ兩國關係ノ安全<sup>定</sup>ニ進ムヲ得策トスヘク

從テ往電第五一〇號中(甲)ニ具申セシ對抗策ノ如キハ我ニ於テ彼ヲ刺戟挑發セル因果的責任ニシテ素ヨリ一時ノ權宜ニ屬シ親善關係ノ成立ヲ助成スル趣旨ナルト共ニ目的達成セハ之ヲ嚴<sup>據</sup>廢スヘキハ勿論ノ儀ニシテ要ハ兩國關係ヲ正常ノ軌道ニ載セ進テ諸案件ノ妥結ヲ期セントスルニアリ而シテ獨逸今回ノ脫退ハ獨逸側ヨリスル蘇獨關係ノ改善ヲ促スヘキモ右ハ將來日蘇獨ノ連衡問題ヲ考慮スルカ如キ場合ノ外現在ノ日蘇外交局面ニハ格別直接ノ影響ヲ與フルモノト認メ難キヲ以テ當面ノ方針決定ニハ暫ク之ヲ度外視シテ可ナリト思考ス

獨、佛へ轉電セリ

スル件

特命全權大使 永井 松三〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

外國人待遇ニ閔スル事故頻発及有色人差別ニ閔

本月十日外務次官ニ同二十日外務大臣ニ本使ガ注意ヲ喚起シタルハ有色人差別待遇ニ閔スル事項ナルカ一般外國人トシテ或ハ國粹社會黨員行列通過ニ際シ其党旗ニ脱帽表敬ノ態度ヲ執ラサリシトカ或ハ間諜的行動アリテ國家ニ危害ヲ与フル嫌疑アリシトカ等々些細ナル理由ニテ黨員ノ爲ニ拉致殴打等ノ迷惑ヲ受クルモノ今春以來少カラサル次第ハ之ヲ耳ニシ居リ現ニ邦人ニシテ此種ノ経験ヲ嘗メタル三四ノ場合報告セラレタルニ付當時直ニ館員ヲシテ外務省係員ニ懇談セシメ係員ヨリシテ遺憾ノ意ヲ表シ此種事件ノ再発ヲ防ケ旨申シ來リ居タルカ他外國人特ニ英米人（瑞西人和蘭人等ニモ實例アリト云フ）ニ対シテハ繼續頻発スルモノト見工米國大使ハ本月十三日本國政府訓令ノ下ニ自國人保護方ニ閔シ外務大臣ニ抗議ヲ提出シ英國大使館モ自國民被難ノ都度外務者ニ對シ必要ノ措置ヲ執リツヽアリ獨逸政府ト

264 昭和8年10月23日 在獨國永井大使宛

獨國における外国人に対する事故頻発および有

色人種差別に關し外務大臣等に抗議について

機密第三四七號

昭和八年十月二十三日

（11月15日接受）

399

シテモ党員末輩力過度ノ愛國愛党心乃至ハ横暴血氣ヨリ腕力ニ訴フルモノ少カラサルヲ憂ヘタル結果ナルベシ今回プロシヤ内務大臣ゲーリング氏ノ名義ヲ以テ此種非行ヲ禁止シ犯行者ヲ嚴罰スヘキ旨ノ指令ヲ発シ尙国粹社会党員鉄兜團員等ニ対シ外國人ハ國家ノ賓客ナリトノ意味ニ於テ待遇ヲ過ツベカラサル旨ヲ命シ管内警察ニ対シテモ外人ノ保護ニ怠ラス仮令必要ナル場合ニモ尋問拘引等ハ慎重鄭寧ニ之

ヲ行フヘキ旨ヲ命シタル趣ナルカ其後此種ノ犯行ノ爲處刑サレタル實例アリタル模様ナリ米國大使ニ対シヒトラー宰相モ米國人保護ニ付充分願念スヘキ旨ヲ約シタル由ニテ本件ハ當国政府ニ於テモ閑却シ居ラサルモノ、如ク且本邦人一般トシテハ滿洲事件ニ関シ共產党力反日の示威運動ヲナシタル時ニ比スレハ現今寧ロ平穩ナリト謂フヲ得ヘキカナレドモ他方斯ル一時の迷惑ト異リ有色人云々ノ差別觀念ヲ長ク法令其他ニ存シ累ヲ我邦人ニ及スカ如キハ輕々ニ看過スヘキ事項ニアラスト思考シ追テ必要ノ場合ニハ御訓令ヲ仰グヘキ所存ナルモ不取敢本使限リナカラ独逸政府切實ノ考量ヲ需メタキ旨電信既報ノ如ク申入レタル次第ナリ右御諒承ヲ仰グ

シテモ党員末輩力過度ノ愛國愛党心乃至ハ横暴血氣ヨリ腕力ニ訴フルモノ少カラサルヲ憂ヘタル結果ナルベシ今回プロシヤ内務大臣ゲーリング氏ノ名義ヲ以テ此種非行ヲ禁止シ犯行者ヲ嚴罰スヘキ旨ノ指令ヲ発シ尙国粹社会党員鉄兜團員等ニ対シ外國人ハ國家ノ賓客ナリトノ意味ニ於テ待遇ヲ過ツベカラサル旨ヲ命シ管内警察ニ対シテモ外人ノ保護ニ怠ラス仮令必要ナル場合ニモ尋問拘引等ハ慎重鄭寧ニ之

ヲ行フヘキ旨ヲ命シタル趣ナルカ其後此種ノ犯行ノ爲處刑サレタル實例アリタル模様ナリ米國大使ニ対シヒトラー宰相モ米國人保護ニ付充分願念スヘキ旨ヲ約シタル由ニテ本件ハ當国政府ニ於テモ閑却シ居ラサルモノ、如ク且本邦人一般トシテハ滿洲事件ニ関シ共產党力反日の示威運動ヲナシタル時ニ比スレハ現今寧ロ平穩ナリト謂フヲ得ヘキカナレドモ他方斯ル一時の迷惑ト異リ有色人云々ノ差別觀念ヲ長ク法令其他ニ存シ累ヲ我邦人ニ及スカ如キハ輕々ニ看過スヘキ事項ニアラスト思考シ追テ必要ノ場合ニハ御訓令ヲ仰グヘキ所存ナルモ不取敢本使限リナカラ独逸政府切實ノ考量ヲ需メタキ旨電信既報ノ如ク申入レタル次第ナリ右御諒承ヲ仰グ

265 昭和8年12月6日 在獨國永井大使より

広田外務大臣宛(電報)

ムツソリーニ、リトヴィノフ会談に関する独  
國紙の報道について

ベルリン 12月6日後発  
本省 12月7日前着

## 第二七一號

「リトヴィノフ」ノ「ムツソリーニ」トノ會談ニ關シテハ當國新聞ハ伊國ヨリノ報道ニ基キ日米蘇三國ノ參加ニ依ル四國條約ノ擴張乃至蘇聯邦ヲ同協約ニ加ヘントスル案ヲ云々又「ナチ」政府成立以來疎隔セル獨蘇關係ハ「ムツソリーニ」ニ依リテ調停セラル可シトノ佛伊ニ於ケル觀測ヲ傳フルト共ニ獨逸トシテハ蘇聯邦ニ對シ「ナチ」政府モ亦「ラツパロ」及伯林條約ニ依ル傳統的政策ヲ維持スルモノナリトナシ四國協約ハ反蘇的性質ヲ有ストノ疑惑ハ本年五月ノ伯林條約延長ニ依リテ打消サレ居ル事ヲ舉ケ兩國ノ根本組織ノ相違及第三「インスター・ナショナル」ノ陰謀ハ特ニ兩國ノ關係ヲ緊張セシメサルヲ得サルモ兩國ノ關係ハ正常ニシテ第三國ノ調停ヲ要セスト爲シ又佛國新聞ノ獨蘇不侵略條

約ノ締結云々ニ對シテハ兩國ノ條約關係ハ「不侵略條約ヨリモ一層擴汎且鞏固ナル基礎ノ上ニ在ルコトヲ指摘シ居ル處五日外交政治「コレスポンデンツ」ハ要旨左ノ通論シタリ

パリ 12月17日後発  
本省 12月18日前着

## 第五九七號(極秘)

伊藤公使ヨリ

出發前一般政局ニ關シ意見交換ヲシ度旨外務次官「レジエ」ニ申込ミ置キタル處十五日面會シ種々談話シタルカ其ノ要旨左ノ通り

(一)、本官ヨリ新任地波蘭ノ隣國タル蘇聯邦ニ關シテハ現下ノ歐洲政局就中獨逸ノ狀況並小商商國ノ地理的關係上佛國トシテハ蘇政府トノ友好關係ヲ保ツラ希望セラルルコト自然ナリト思考スト切出シタル處「レ」ハ直ニ語ヲ挿ミ佛國カ蘇聯邦ト友好關係ヲ希望シ又ハ共同政策ニ出ツル如キコトアリスルモ右ハ全然歐洲問題ニ限定スルトノ嚴密ナル了解ノ下ニ行ハルモノニシテ佛蘇ノ關係力亞細亞ノ狀況ニ影響ヲ及ホスヘキコトハ之ヲ避ケル様努メ居ル次第ニテ此ノ點ハ蘇政府モ了解シ來レリ右ハ佛國カ日本ト長年ニ亘り有スル友好關係ノ繼續ヲ希望シ之ヲ阻害セサラントノ目的ヨリ出テタルモノニシテ此ノ點ニ

在伊及在露大使ヘ郵送セリ

266 昭和8年12月17日 在仏國澤田臨時代理大使より

広田外務大臣宛(電報)

歐洲状勢に關するレジエ外務事務次官と伊藤  
公使の意見交換について

モ能ク御了解アル様希望ニ堪エスト繰返シ述ヘタリ

本官ヨリ最近「エリオ」「コット」等ノ對蘇訪問ハ或ハ佛國カ蘇聯邦ト戰前ニ露佛間ニ存在セル如キ關係ヲ再立セントノ希望ヲ表明スルモノニ非サルヤト尋ネタルニ對シ「レ」ハ右訪問ノ主タル目的ハ經濟關係ヲ密接ナランムニ存シ政治問題ハ言ハハ附屬的意義ヲ有セルニ過キス經濟關係ニ付テモ其ノ結果極東ニ影響ヲ及ホス如キコトハ之ヲ避クル様注意シ居ル次第ニシテ佛國カ蘇聯邦ノ協力ヲ希望スルハ歐洲ニ於ケル事件ニ限定シ居ル次第ニ付此ノ點誤解無キ様顧度シト答ヘタリ

(二)、本官ヨリ自分ノ有スル情報ニ依レハ獨逸ノ軍備ハ茲兩三年間勝利ノ見込アル如キ戰爭ヲ爲スコトヲ許ササル狀態ニ在リト思考シ居ル處佛國政府ニ於テハ此ノ點ニ關シ本官ノ見込ト異ル情報ヲ有セラルヤト尋ネタル處(本年八月既ニ本問題ニ關シ「レ」ト會談シタルコトアリ)

「レ」ハ自分ノ見込モ大体同様ニシテ獨逸政府ハ現在各國ノ了解ヲ得軍備ノ充實ヲ計ラントシ表面平和政策ヲ標榜シ關係國政府ト交渉ヲ開始シ居ル狀況ナルモ該平和政策ハ所謂「カモフラージ」ニ過キス而モ關係國カ右ノ内

タルニ對シ「レ」ハ右ハ尤モノ次第ナルモ伊國ハ何等此ノ點ニ關シ佛國側ニハ申出ヲ爲シタルコトナク伊國ノ聯盟改革案ナルモノモ非常ニ研究シタル結果出テタル案ニモ非サルヘシト想像セラルト附言セリ

~~~~~

267

昭和8年12月18日

在仏國沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

独仏直接交渉・軍縮および連盟改造など歐州

諸国の動向に関する新聞論調について

パリ 12月18日後発

本省 12月19日前着

第六〇二號
往電第五五九號ニ關シ

十二月二十三日ノ「ヒツトラー」「ポンセ」會談ノ外本月ニ入りテヨリ三日「ムツソリーニ」「リトリノフ」會談五日「ファシスト」評議會ノ聯盟改造決議六日在佛英大使ノ急遽歸英十一日「ヒツトラー」「ポンセ」第二次會談十二日伊國「デユビツチ」ノ伯林訪問十四日「ベネシユ」ノ來巴等外交上重要意義ヲ有スル出來事相次ク一方英外相ハ

情ヲ知リ居ル爲獨逸ノ申込ヲ承諾セサル如キ場合無シトモ限ラス問題ハ此ノ場合獨逸カ如何ナル態度ニ出ツルヤニアリテ自分ハ獨逸ハ其ノ本音ヲ現ハシ急ニ其ノ軍備擴張ヲ爲スニ至ルヘシト想像シ居レリト述ヘタリ

(三)、本官ヨリ歐洲ノ政局ニ於テ現在重要ナル役目ヲ爲スハ英、伊ノ政策ナルカ兩政府共相當明瞭ニ其ノ意嚮ヲ表示シ居ル次第ナルモ最近伊國ノ聯盟改革提案ナルモノハ突飛ニシテ本官ノ觀ル所ニ依レハ聯盟打破以外改革ノ實案存セスト思考セラルルニ伊國カ右ノ如キ提案ヲ爲セルハ何等具体案ヲ有スル次第ナリヤ又右ニ關シ佛國ニ「アプローチ」シタルコトアリヤト尋ネタルニ對シ「レ」ハ伊國ハ聯盟改革ヲ叫ヒ居ルモ具体的提案ヲ有ストハ思考セラレス「ムソリーニ」カ義ニ佛國大使ト會談セル際モ右ノ如キ案ニ關シ何等言及セサリシノミナラス伊國ハ聯盟ヲ脱退スルモノニ非サル旨ヲ確言セル次第ニシテ伊國ノ態度ハ一種ノ「デモンストレーション」ニ過キサルカト思ハルト述ヘタルニ付本官ハ聯盟改革ノ唯一ノ具体案ハ規約第十九條ノ活用ニ在リト存セラルル處伊國政府カ此ノ問題ニ付何等提議ヲ爲サハ當然問題トナルヘシト述ヘ

投票後同地方ニ於ケル兩國ノ經濟關係ヲ定ムル爲ナラハ
兎モ角然ラサル限り本問題ヲ直接交渉ノ題目トスルコト

ニ反対シ(レ)獨逸軍備問題ニ關シテハ獨逸ハ近代的裝備ヲ有スル三十萬ノ軍隊重砲大形戰車等攻擊的武器ト認メラレタルモノノ一般的廢止(若シ他國ニ於テ一定期間内ニ右武器ヲ破壊セサル時ハ獨逸モ右武器ヲ保有スルコトヲ得)

客年三月十六日ノ英國提案ニ依リ各國ニ保有ヲ許容セテ
ル武器ノ保有ヲ要求シタル趣ナルモ佛國ハ十月十四日

ノ軍縮會議ノ決議ニ從ヒ獨逸ノ再軍備ヲ容認スル能ハス
而モ右軍隊ノ服務年限ヲ如何ニスヘキヤ將又二百萬ニ上
ル突擊隊其ノ他ノ軍事團體ヲ如何ニ處分スヘキヤ等ノ諸
點ニ關シ明確ヲ缺キ第二次會見ニ於テモ之ヲ明カニスル
ヲ得サリシコトヲ指摘シ他方英國ハ佛獨直接交渉ノ決裂
ヲ避クル爲獨佛不侵略條約提議ヲ獨逸ニ「サヂエスト」
シタルカ如キモスル提議ハ「口カルノ」條約不戰條約ノ
現存スル今日何等佛國ニ有效ナル保障ヲ齎スモノニ非ス
ト爲シ直接交渉自體ニ對シテハ多少ノ贊成論無キニ非ス
ルモ多數ノ者ハ獨佛交渉ハ單ニ獨逸ノ要求ノミヲ目的ト

スル十月十四日ノ決定ノ趣旨ヲ斷乎トシテ維持スヘシト論

同盟改進問題ニ關シテハ「ファシスト」評議會ノ聯盟改決議ハ四國協定同様聯盟理事會ニ代リ鞏固^開ノ「デレクトアール」ヲ以テ歐洲問題ノ解決ヲ爲サントスル伊國政策ノ一表現ニシテ曩ニ獨逸力聯盟ヲ脫退シタルト他方露國カ米國ノ承認ヲ受ケ強國團体ニ復歸シ國際政局ニ於ケル其ノ役割ヲ演スルニ至リ聯盟トノ關係ヲ考慮スルノ必要ヲ生シタルトニ依リ伊國ハ此等兩國ノ意ヲ汲ミ此ノ舉

條約ノ變更ヲ來ス一方鞏固ノ「ヂレクトアール」ヲ認ム
ルコトハ聯盟ノ存立理由タル各國平等ノ主義ヲ滅却スル
モノト云フヘク波蘭西班牙小協商國白耳義等ノ各國ハ到

底スル改造ヲ承認セサルヘク然モ聯盟規約ノ改正ハ總會全員ノ一致ニ待タサルヘカラサルヲ以テ右改革ハ實行不

之ヲ要スルニ英國ノ軍縮ニ對スル態度ト云ヒ伊國ノ聯盟ニ對スル態度ト云ヒ何レモ獨逸ヲ支持シテ佛國ニ犠牲ヲ

シ佛國トシテハ何等ノ要求モ有セサル上本交渉開始後佛國ニ於テ英ノ協定^(締結)ヲ拒絶センカ其ノ責任ハ佛國ノ負フ處

3) ナルヘク寧口獨佛直接交渉ヲ爲ササルニ如ガストノ意嚮ヲ示シ居レリ尙六日下院外交委員會ニ於テ右派議員「イバルネガレ」ハ「佛國ハ日独伊等ヨリ見離サレタル聯盟ニ戀々タルヘカラス宜シク獨佛直接交渉ヲ開始スヘキナリ但シ之ニ先タチ佛國ニ於テ鞏固ナル政府ヲ作ルコト佛國軍隊ノ改革波蘭及小協商國トノ關係ヲ更ニ緊密ナラシムルコトヲ條件トス」ト述ヘタルニ對シ委員長「エリオ」ハ「佛國ノ根本政策タル聯盟中心主義ヲ棄ツルカ如キ措置ハ採ルヘカラス英蘇トノ親善關係ヲ鞏固ニシ聯盟ニ依リ解決ヲ求ムヘシ」ト述ヘ寧口獨佛直接交渉ニ反對ノ意見ヲ述ヘタルコトヲ報ス

軍縮問題ニ關シテハ英國力獨逸ノ軍縮會議復歸ヲ實現セ
ンカ爲ニハ十月十四日ノ決定タル獨逸再軍備禁止ノ主義
ニ背反スルモ厭ハサル傾向アルコト及伊國力獨逸ニ對シ
満足ナル解決ヲ與ヘンカ爲平和條約ノ軍事條項ヲ變更シ
又ハ軍縮問題ヲ聯盟外ニ於テ處理セントスルヲ非難スル
ト共ニ佛國ハ國際監督試驗期間獨逸再軍備保障等ニ關ス

ヲ示スニ止マリ居ル處斯ル態度ハ事態ヲ徒ニ遷延セシム
強フルモノト云フヘク佛國ハ此等運動ニ對シ受動的態度
ルニ過キスシテ決定的解決ヲ導ク所以ニ非ス宜シク斷乎
タル政策ニ出ツヘキナリト說キ之力爲ニハ凡ユル提案ヲ
拒絕シ之ニ伴フ紛糾情態ニ處スル措置ヲ考量スルカ力或ハ
佛國ヨリ逆襲的ニ條件ヲ提出シ之力受諾ヲ求ムルカノニ
途アルノミニナリト論スルモノ多シ

編注 「**協定**」の箇所に「**調停**」と書込みあり。

昭和8年12月22日
在独國永井大使より
広田外務大臣宛

独國における人種問題に関するノイテリト外相

機密第四五二號
（昭和9年1月15日接受）

三
易

特命全權大使 永井 松三〔印〕

人種問題ニ關シ追申ノ件

當國ニ於ケル人種問題ニ關シテハ本月十六日附機密第四四二號ヲ以テ重ネテ申進ノ次第アリタル處十八日「フオン・ノイラート」外相ト面接ノ際本使ハ他ノ談話ト關聯シ再ヒ人種問題ニ言及シタルニ同外相ハ直ニ本使ノ言ヲ遮リ本問題ニ付テハ目下政府ニ於テ之ヲ円満ニ解決センカ爲メ折角努力中ナルニ付暫ラク時ヲ待タレ度キ旨述ヘ且前記公信中五ニ記述ノ外務省東洋關係係官ノ談話ト同様ノ趣旨ヲ述フル所アリタルカ尚十九日或ル機會ニ館貢カ右トハ別ノ外務省東洋關係係官ト談話ヲ交換シタル際同係官ハ館貢ニ對シ當國ニ於ケル人種問題ハ現實ノ問題トシテ猶太人ニ對スル問題ナルハ御承知ノ通リナル處元來一國民トシテ自己ノ血ヲ尊重セサルヘカラサルハ當然ナリ然ルニ日本國民カ自己ノ血ニ對シ極メテ深キ尊重ノ念ヲ有シ居ルニ比スレハ獨逸國民ハ此ノ念ニ於テ甚タ劣レリ從テ此ノ理由アレハコソ獨逸ハ猶太人ノ禍ヲ蒙ムルニ至リタル次第ニシテ今ヤ獨逸ハ國民ノ民族的自覺ヲ覺醒セシムルヲ極メテ必要トシツツアリ而シテ國民ニ強キ民族的自覺ダニアラハ混血防止ノ法律

逸ハ猶太人ノ禍ヲ蒙ムルニ至リタル次第ニシテ今ヤ獨逸ハ國民ノ民族的自覺ヲ覺醒セシムルヲ極メテ必要トシツツアリ而シテ國民ニ強キ民族的自覺ダニアラハ混血防止ノ法律

モ不必要ノ譯ナルヘキ處國民ノ民族的自覺ヲ覺醒セシムルハ寧ロ立法ノ問題ニ非スシテ國民教育ノ問題ナルヘキ旨同係官ノ私見トシテ述ヘ外務省ハ何國ノ國民的感情ヲモ害スルコトナクシテ問題ヲ解決スヘキ方法考究中ナル旨内話シタル趣ナリ

惟フニ當國外務省トシテハ人種問題ニ關シ國粹社會黨ノ主義的主張ト戰ヒツツアルモノト認メラレ而シテ今、當國トシテ我國ノ國民的感情ヲ害スルカ如キ婚姻禁止其他ノ法律ヲ制定スルカ如キコト恐ラクナカルヘシト考ヘラルモ此先引續キ國民教育ニ於テ獨逸民族乃至「アーリア」人種ノ優秀並其血ノ純潔維持力高調セラレ其結果トシテ事實上一般民衆ニ非「アーリア」人種ヲ劣等視スル觀念ヲ增大セシムルコトアリ得ヘキハ之ヲ豫想セサルヘカラサルノミナラス他面現行法規トシテ「アーリアン、クローズ」ノ存スル以上我方トシテ前信記述ノ諸點ニ付大ナル關心ヲ有セサルヲ得サルモノト思考ス

右前信ノ追加トシテ申進ス

方出先使臣ニ對シ屢次訓令シ居ル次第ニシテ現ニ当地ニ於ケル両國政府間ノ折衝ノ際モ常ニ自分ヨリ此ノ點ニ関シ「ソ」側ニ於テ誤解又ハ誤リタル希望ヲ抱クコトナキ様篤ト念ヲ押シ居ル次第ナリト繰返シ述ヘ日本政府ニ於テ何等誤解ナキ様希望スト語レリ仍テ全大使ハ佛國政府ニ於テ對「ソ」関係改善ニ依リ間接ニモ日本ニ圧迫ヲ加ヘントスルカ如キ意志ナカルヘキハ自分個人トシテ充分承知シヲルモ本日責任アル貴外相ヨリ親シク右事態ニ關シ適當ナル説明及「アシユアランス」ヲ与ヘラレタルコトハ本使ノ頗ル重要視スル次第ニシテ帝國政府ニ於テモ大イニ欣幸トスル所ナルヘシト應酬シ置キタル趣ナリ

(浦潮ヘハ哈府ヘ暗送アリタシ)

合第二二三號（極秘扱）

在佛佐藤大使着任挨拶ノ爲二十一日「ポール、ボンクール」外相ヲ往訪セル際同外相ハ佛國政府カ最近「ソ」聯邦トノ關係改善ニ努メラル次第ハ夙ニ御承知ナルヘシト信スル處右ハ専ラ對獨關係上勢力ノ均衡ヲ得ントスル趣旨ニ外ナラス嚴ニ歐洲問題ニノミ局限セントスルモノニシテ素ヨリ極東ニ於ケル日本ノ立場ニ累ヲ及ホサシムルノ意図毫モナシ此ノ點ニ関シテハ日本側ニ何等危惧ヲ与ヘサル様充分注意

昭和8年12月27日

広田外務大臣より
在滿州国菱刈（隆）大使他宛（電報）

フランスの対ソ関係改善は極東における日本の立場に累を及ぼすものではないとのボンカー

ル外相の佐藤大使への内話について

本省 12月27日後発

269